

目次

- 1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 . . . p. 1
- 2 人材需要の動向等社会の要請 . . . p. 5

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

神戸女子短期大学（以下「本学」という。）は入学定員の適正化を図るため、総合生活学科、食物栄養学科及び幼児教育学科の各学科の入学定員、収容定員を以下のとおりに変更する。

	入学定員		収容定員	
	変更前	変更後	変更前	変更後
総合生活学科	120	100	240	200
食物栄養学科	120	60	240	120
幼児教育学科	100	80	200	160
合計	340	240	680	480

少子化による18歳人口の減少、全国的に短期大学の志願者数の減少等（資料1：表1・表2）の様々な要因により、本学の各学科ともに志願者数は減少している。各学科別に過去5年間の平均入学定員充足率も総合生活学科が80.82%、食物栄養学科が71.30%、幼児教育学科が83.60%となっている（資料2：表1・表2・表3）。このことから、本学は定員充足率の向上を図るため、各学科の入学定員及び収容定員を変更する。

総合生活学科

生活の基本である衣・食・住から情報・ビジネス等までさまざまな要素を一步深めて学べ、やりたいことがたくさんある人は、自分の可能性がさらに広がることで、幅広く学んで自分の道を見つけられる魅力ある学科となっている。しかしながら、志願者数は現入学定員を充足するに足る人数ではなく、入学定員120名に対して過去5年間の平均志願者数は232人、平均入学者数が97人（資料2：表1）となっている。志願者数が平均して230名を維持しており、入学者数も100名前後で推移していることから実態に合わせた入学定員として100名とし、一定水準以上の志願倍率を確保しながら、今後も充分確保できる入学定員と考える。

食物栄養学科

子どもの食育やメタボリックシンドロームなどが大きな社会問題となり、食や健康に関する関心が高まってきている中、日々の健康を支える「食」を提供する確かな技術と、こころとからだの成長に役立つ「食」のあり方を考え実践する力を養うことを目的に、知識や教養はもちろん、実験・実習にウェイトを置いた授業内容で、卒業後に栄養士として即戦力となる多くの食育のスペシャリストを輩出してきた。このような取組に対して、受験生、保護者、高等学校からは一定の評価を得てきているが、過去5年間の平均受験者数は247人（資料2：表2）で、平均入学者数は88人である。入学定員充足率も70%程度であることから、120名の約7割である80名を入学定員とするところであるが、全国的な栄養・食物学の志願者動向は「リクルート入試実態調査」において衰退期であり、より実態に合った入学定員として60名とすることで、一定水準以上の志願倍率を確保しながら、入学定員に見合う入学者数を確保することは十分可能であると考ええる。

幼児教育学科

人間の成長や発達についての専門的理解を踏まえた保育実践力を身に付け、子どもへの愛情あふれた保育者としての高い資質を備え、社会にとって自立した有意な女性を育成してきた。このような取組に対して、受験生、保護者、高等学校からは一定の評価を得てきているが、過去5年間の平均受験者数は223人（資料2：表3）で、平均入学者数は84人となっていることから、実態に合わせた入学定員として80名とし、一定水準以上の志願倍率を確保しながら、今後も充分確保できる入学定員と考える。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

日本私立学校振興・共済事業団（平成27年度から平成31年度の私立大学・短期大学入学志願動向）の調査では、全国及び本学の設置場所である兵庫県の短期大学の受験者数、入学者数は過去5年間減少し続けている。入学定員充足率も減少傾向にあり過去5年間の平均が全国89.67%、兵庫県85.89%で入学定員を充たせない状況となっている（資料1：表1・表2）。本学においても入学者数は減少傾向にあることから入学定員の見直しを実施するが、近年の入学者数実績に合わせた入学定員とすることから、入学定員を充たせるものと考ええる。具体的には過去5年間の各学科の入学志願状況等は次のとおりである。

総合生活学科

志願者数は、平成28年度210名、平成29年度202名、平成30年度236名、平成31年度261名、令和2年度254名（資料2：表1）で、安定的に志願者数は確保で

きているが、入学者数は定員 120 名に対して、96 名、87 名、96 名、98 名、108 名となっていることから、実態に合わせた人数として入学定員 100 名とすることで、定員の充足は可能と考える。

食物栄養学科

志願者数は、平成 28 年度 276 名、平成 29 年度 268 名、平成 30 年度 288 名、平成 31 年度 233 名、令和 2 年度 169 名（資料 2：表 2）と令和 2 年度に急激に志願者数が減少している。そのため、令和 2 年度の定員充足率は 54.1%となり、過去 5 年間の入学者数を見てみると平成 28 年度から 97 名、93 名、98 名、89 名、65 名で、過去 5 年間の平均入学者数は 88 名となっている。令和 2 年度に急激に入学者数が減少し 65 名となっていること、全国的な栄養・食物学の志願者動向が「リクルート入試実態調査」においても衰退期であり、より実態に合った入学定員として 60 名にすることで、一定の教育水準を確保し、定員の充足は可能と考える。

幼児教育学科

志願者数は、平成 28 年度 320 名、平成 29 年度 256 名、平成 30 年度 229 名、平成 31 年度 176 名、令和 2 年度 136 名（資料 2：表 3）と推移し、減少傾向が継続しているが、入学者数は定員 100 名に対して、95 名、94 名、81 名、80 名、68 名で、過去 5 年間の平均入学者数が 84 名となっていることから、実態に合わせた人数として入学定員 80 名とすることで、定員の充足は可能と考える。

平成 31（令和元）年度のオープンキャンパスでは、各学科の来場者数が総合生活学科 336 人、食物栄養学科 239 人、幼児教育学科 384 人となっており（資料 3：表 1）、平成 29 年度より食物栄養学科と幼児教育学科は減少しているが、過去 5 年間の平均志願者数と比較しても総合生活学科が 233 名、食物栄養学科 247 名、幼児教育学科 223 名で遜色ない人数である。また、3 学科への資料請求者数も 1,286 人（資料 3：表 2）で、前年比約 85%ではあるが、定員削減後の入学定員は確保できるものと考えられる。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

各学科の学生確保に向けて、以下に示す取組を引き続き実施する。特に定員超過率 0.7 倍未満となった食物栄養学科については、学科の特長である栄養と食のスペシャリストの育成がさらに受験生に浸透するよう PR する。

① 受験生向けメディアの活用

受験情報誌（リクルート、ベネッセ、キッズコーポレーション他）において各学科の概要を高校生が進路に関心を持ち始める時期を中心にして段階的に掲載し、資

料請求者は平成 31（令和元）年度 1,286 人（資料 3：表 2）で、資料を請求してきた受験生に対しては時期や地域に応じてオープンキャンパスや進学相談会等の情報を提供し、参加を促している。

② Web を活用した情報提供

本学ホームページにおいて、学科の目標、学修内容、就職、進学、資格など学科の情報を多岐にわたって紹介しており、別途、同一法人の神戸女子大学と一体となった受験生向けホームページ（Smile Navi Web）を開設して、入試情報、イベント情報、キャンパスライフ、各種動画、ブログ等を掲載し、高校生に対して入試情報や学生生活等の全般にわたって本学ホームページとは異なる視点から情報提供を行っている。特に、Web の特性を活かした動画については授業、イベント、クラブ他様々な視点から在学生の活動の様子を紹介している

③ 資料請求者に対する情報提供

資料請求者に対しては『大学案内』や『入試要項』の他に、年 3 回神戸女子大学と共通の情報誌『スマイルナビ』を発行し、『大学案内』とは異なる視点で情報提供を行っている。また、アンケートハガキで受験生の反応や興味・関心を調べ、広報活動に反映させている。

④ オープンキャンパス等イベントでの情報提供

平成 31（令和元）年度はオープンキャンパスを 6 月から 3 月まで合計 7 回実施し、計 959 人（資料 3：表 1）総合生活学科 336 人、食物栄養学科 239 人、幼児教育学科 384 人）の高校生が神戸女子短期大学を志望した。本学の特色を活かした展示・授業体験・学科相談・在学生とのフリートークを始め、入試相談、キャンパスツアー、保護者説明会等様々なプログラムを実施し、各学科の内容や在学生の様子等を理解できるよい機会を提供している。

⑤ 高等学校に対する情報提供

本学には高等学校訪問の専従職員が 2 人おり、本学の受験実績校を中心に広く丁寧に、年間で延べ 800 校以上の高等学校の進路指導室を訪問している。常に、最新情報を提供し、近隣の高等学校には多いところで年間 6 回以上も訪問し、高等学校の進学状況に応じて情報の提供を行っている。

また、本学独自の高等学校教員対象の説明会や高等学校内ガイダンス、高等学校単位でのキャンパス見学の受け入れ等も含め、様々な手法で情報提供を行っている。

⑥ 多様な入試制度

本学では多彩な入試方法を実施しており、令和 2 年度入試においては、高大接続改革における入試改革の総合型選抜、学校型選抜、一般選抜の入試を実施し、その枠組みの中で多種多様な入試を実施することとなっている。平成 31（令和元）年度

の公募制推薦入試において、調査書の配点比率の異なる入試を実施し、試験科目も公募制推薦入試で5科目（英語・国語・化学・生物・日本史）、一般入試においては最大7科目（英語・国語・化学・生物・数学・日本史・世界史）を用意し、文系・理系を問わず多くの受験生が受験しやすい体制をとっている。

また、兵庫県以外からの受験生も多いため、学外試験会場も推薦入試前期で7会場（京都・大阪・和歌山・岡山・広島・高松・松山）、一般入試前期では12会場（東京・金沢・名古屋・京都・大阪・和歌山・米子・岡山・広島・高松・福岡・松山）、3月に実施される一般入試後期でも3会場（大阪・福山・高松）を開設し、近畿地区だけでなく遠隔地からの受験生の負担が少なくなるよう試験会場を設定している。

2. 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

（人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的）

本学の目的は、「教育基本法及び学校教育法に基づき、女性生活に関する教養と技術について高等教育を施し、望ましい社会人を育成することを目的として、もって我が国の文化の進展に寄与すること」である。また、「民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成する」と定めた「建学の精神」に基づき、21世紀社会に貢献する「自立心・対話力・創造性」を備えた次のような女性を育成することを目指している。

- ・ 勤労を愛し、義務と責任を重んじ、主体的に社会参画を果たそうとする自立心を備えた女性
- ・ 相手の心情をよく理解し、自分の意思を豊かに表現することのできる対話力に優れた女性
- ・ 学術の研究を通して身に付けた識見をもとに、自ら主体的に考え問題解決を図ろうとする創造性に富んだ女性

総合生活学科

衣・食・住を含む生活空間、及び情報・ビジネス社会における諸現象や諸問題を教育研究の対象とし、生活に関わる種々の課題を自らの目線で能動的に捉え、本学科で学んだ講義・演習・実習等を通して、より高い次元で問題解決を図ろうとする意欲と実践力を身に付けた人材を養成することを目的にしている。

具体的には、以下の能力と態度を有した人材の養成を行っている。

【知識・技能】

生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有し、選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力並びに現代社会の課題発見能力と課題解決能力等を有するとともに社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力と未来を切り開く創造力を有している。

【主体性・多様性・協働性】

実現可能なキャリアプランに向かって主体的に学修を深め、資格取得に資する力と人々と協働して学修を進める力を有している。

食物栄養学科

「人間性豊かな食と健康のクリエーション」をスローガンに、時代が求める「食」のスペシャリストの育成を目指している。それを達成するため、食と健康に関わる諸問題について系統的な研究と教育を行い、健康な生活を送るために必要とされる幅広い知識と深い専門性を備えた、社会にとって有為な自立した女性の育成を教育研究上の目的と位置づけ、具体的には、以下の能力と態度を有した人材の養成を行っている。

【知識・技能】

食品、栄養と健康に関する専門知識、食育の実践に必要となる知識・技能を身に付けるとともに健康管理を行うために必要となる知識・技能も身に付けている。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

食と健康に関する情報を客観的に理解し情報ツールを使いこなし課題を解決する能力や判断力、専門知識や技能を活用し、食事指導や食事管理に携わることができるプレゼンテーション能力を身に付けている。

【主体性・多様性・協働性】

食と健康に関する問題を主体的に学ぼうとする態度と食と健康に関して生涯にわたり学ぶ姿勢及び専門知識や技能を活用し、社会に貢献できる能力を身に付けている。

幼児教育学科

人間の成長や発達について、また保育・教育の方法についての専門性を深めるための教育研究を行い、子どもへの愛情にあふれ、職場の人々や子どもの保護者さらに地域社会と豊かに交わるための高いコミュニケーション力を持った保育者として、社会に貢献できる人材の養成を目的としている。具体的には、以下の能力と態度を有した人材の養成を行っている。

【知識・技能】

幼児教育・保育にかかわるための教養や専門的知識を身に付けている。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

幼児教育・保育に必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力を身に付けている。

【主体性・多様性・協働性】

保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができ、多様な社会において、他者を尊重し、相互理解を深めて協働しようとする意欲や関心を持ち、生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を有している。

(教育課程の編成方針)

総合生活学科

自らのキャリアプランに応じて科目を選択し総合的に学べるよう体系的なカリキュラムによってつぎのように教育課程を編成している。

- ・学科基礎科目の必修科目として、「総合生活論」、「基礎ゼミ」、「総合生活演習」、選択科目として「被服学」「調理学」「住居学」等の生活全般に関わる基礎知識・基礎技術の習得を中心とする専門科目を用意している。
- ・学科の選択科目は10科目群で「基礎デザイン」「服飾デザイン」「住居デザイン」等を編成している。
- ・各科目で身に付けた専門的知識・技術を基にして、応用力や実践力が身に付くよう、講義形式、演習形式、実験・実習形式など、科目の特性に応じた多様な方法で授業を行っている。
- ・以下の資格や免許等が取得できる科目編成をしている。
二級建築士・木造建築士（受験資格）、フードスペシャリスト（受験資格）、
フードコーディネーター3級、秘書士、プレゼンテーション実務士

食物栄養学科

資質の高い社会の即戦力となる栄養士を育成するため、「栄養士資格に関する科

目」、「栄養士以外の資格に関する科目」、「選択科目」によって次のように教育課程を編成している。

- ・「栄養士資格に関する科目」は、卒業必修科目と栄養士資格取得に必要な科目に分けて配置している。実習や実験を多く取り入れることにより、栄養士として必要な、食品・栄養と健康に関する基礎的な知識や実践的な能力を身に付けることができるようにカリキュラムを編成している。
- ・「栄養士以外の資格に関する科目」は、食品に関する専門知識や、食品の管理や開発に関する専門知識を身に付けることができるようにカリキュラムを編成している。
- ・「選択科目」では、基礎知識を補う専門科目に加えて応用科目を開講し、社会人（栄養士）として、社会のニーズに対応した専門知識や技能を活用し、社会に貢献できる能力を身に付けることができるようにカリキュラムを編成している。

幼児教育学科

資質の高い幼稚園教諭と保育士を育成するために以下のような専門科目によって、教育課程を編成している。

- ・幼稚園教諭・保育士に相応しい能力を育てるために、専門的な方法論と知識を体系的に学ぶことを目的に、専門科目、幼稚園教諭二種免許状取得に関する科目、保育士資格取得に関する科目を設置する。
- ・知識の活用能力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力など、社会生活において必須となる一般的な能力を養成するために、研究やディスカッションを実践的に積み上げる参加型の少人数授業を開講する。
- ・高い倫理性に裏付けされた保育者としての実践力を育てるために、教養科目及び専門科目の充実を図り、丁寧な個別指導を実施する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

神戸女子短期大学は、「民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成する」と定めた「建学の精神」に基づき、21世紀社会に貢献する「自立心・対話力・創造性」を備えた女性を育成することを目指しており、社会的、地域的な人材需要としては、これまでの求人数の推移から十二分にあることが言える（資料4：表1）。各学科別の就職状況等については、つぎのとおりである。

総合生活学科

生活の基本である衣・食・住からさまざまな要素を一步深めて学べ、幅広く学ぶことができる学科として、令和2年3月卒業生の就職先としては、業種別に小売が最も多く42%、次いでサービス24%、3番目に運輸・通信13%、4番目に製造12%となっている。就職率は、過去5年間は90%以上で平均96.8%（資料4：表2）となっていることから学生支援体制の強化やキャリア教育及び専門教育の充実化により、短期大学である本学総合生活学科が養成する人材は、今後も社会的・地域的な需要が十分見込め、社会の期待に応えていけるものと考えている。

食物栄養学科

栄養士養成施設の指定を受けている学科であり、栄養士資格に関する科目として、「社会生活と健康」、「人体の構造と機能」、「食品と衛生」、「栄養と健康」、「栄養の指導」、「給食の運営」を配置し社会の各分野に対応でき、特に、食品関係の企業の要望に応えられる人材育成を行っている。

令和2年3月卒業の職種別就職実績としては、栄養士が最も多く56%、販売が21%、同じく事務職21%の順となっており、業種別では給食が最も多く43%、小売19%、保育・福祉が16%、サービス8%、同じく製造8%となっていることから、多くの卒業生が食品関係の企業への就職、栄養関連に就業している。

就職率は、過去5年間の平均が98.8%（資料4：表2）となっていることから、学生支援体制の強化やキャリア教育及び専門教育の充実化により、女子短期大学である本学食物栄養学科が養成する人材は、今後も社会的・地域的な需要が十分見込め、社会の期待に応えていけるものと考えている。

幼児教育学科

本学科では、子どもたちを笑顔にできるそして子どもたちの未来を育むことのできる「保育者」を養成している。

令和2年3月卒業の職種別就職実績としては、保育士が64%、幼稚園教員31%であり、卒業生のほぼ全員が養成している「保育者」として就職し、業種別でも保育所64%、幼稚園31%となっている。就職率については、8年間継続して100%（資料4：表2）であることから引き続き専門教育の充実化により、女子短期大学である本学幼児教育学科が養成する人材は、今後も社会的・地域的な需要が十分見込め、社会の期待に応えていけるものと考えている。

(添付資料)

資料1. 全国短期大学入学定員充足率等の推移、兵庫県短期大学入学定員充足率等の推移

資料2. 学科別入学志願状況推移

資料3. オープンキャンパス学科別来場者数推移、資料請求者数推移

資料4. 神戸女子短期大学求人件数推移、神戸女子短期大学就職率推移

■表1 全国短期大学入学定員充足率等の推移

日本私立学校振興・共済事業団（平成31年度私立大学・短期大学入学志願動向より抜粋し、本学で作成）

年度（和暦）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	5年間平均	5年間の減少人数
志願者数(人)	89,349	83,116	78,338	75,631	72,587	79,804	16,762
受験者数(人)	87,680	80,684	76,130	73,494	70,384	77,674	17,296
合格者数(人)	71,585	67,381	64,244	61,904	59,531	64,929	12,054
入学者数(人)	57,951	55,171	53,389	51,214	48,705	53,286	9,246
入学定員充足率(%)	92.78	90.07	90.31	88.06	87.15	89.67	—

■表2 兵庫県短期大学入学定員充足率等の推移

日本私立学校振興・共済事業団（私立大学・短期大学入学志願動向より抜粋し、本学で作成）

年度（和暦）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	5年間平均	5年間の減少人数
志願者数(人)	6,658	6,996	6,585	6,267	6,162	6,534	496
受験者数(人)	6,535	6,033	5,691	5,421	5,302	5,796	1,233
合格者数(人)	5,084	4,843	4,658	4,246	4,360	4,638	724
入学者数(人)	3,005	2,921	2,824	2,575	2,556	2,776	449
入学定員充足率(%)	88.12	86.93	86.10	80.47	87.84	85.89	—

■学科別 入学志願状況推移

表1 総合生活学科入学志願状況推移

年度（和暦）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	5年間平均
志願者数(人)	210	202	236	261	254	233
受験者数(人)	208	201	234	261	249	231
合格者数(人)	194	174	196	229	213	201
入学者数(人)	96	87	96	98	108	97
入学定員充足率(%)	80.00	72.50	80.00	81.60	90.00	80.82

表2 食物栄養学科入学志願状況推移（平成28年度入学定員140名）

年度（和暦）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	5年間平均
志願者数(人)	276	268	288	233	169	247
受験者数(人)	273	268	288	233	169	246
合格者数(人)	223	208	240	197	128	199
入学者数(人)	97	93	98	89	65	88
入学定員充足率(%)	69.20	77.50	81.60	74.10	54.10	71.30

表3 幼児教育学科入学志願状況推移

年度（和暦）	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	5年間平均
志願者数(人)	320	256	229	176	136	223
受験者数(人)	316	254	229	174	136	222
合格者数(人)	235	215	195	164	119	186
入学者数(人)	95	94	81	80	68	84
入学定員充足率(%)	95.00	94.00	81.00	80.00	68.00	83.60

■表1 オープンキャンパス学科別来場者数推移

年度（和暦）	平成29年度	平成30年度	平成31年度
総合生活学科(人)	335	266	336
食物栄養学科(人)	312	271	239
幼児教育学科(人)	462	394	384
計	1,109	931	959

■表2 資料請求者数推移

年度（和暦）	平成29年度	平成30年度	平成31年度
総合生活学科(人)	423	411	385
食物栄養学科(人)	501	410	360
幼児教育学科(人)	849	687	541
計	1,773	1,508	1,286

■表1 神戸女子短期大学 求人件数推移

【単位：件】

年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
短大計	1,370	1,865	2,681	3,201	2,814	2,665	3,362	3,266	2,820	11,539

(平成31年度から求人ナビサイト導入により企業側からのWEB登録としたため、求人件数が急激に増加)

■表2 神戸女子短期大学 就職率推移

※学科別の就職者数÷就職希望者数

【単位：％】

年月	23年3月 卒業	24年3月 卒業	25年3月 卒業	26年3月 卒業	27年3月 卒業	28年3月 卒業	29年3月 卒業	30年3月 卒業	31年3月 卒業	2年3月 卒業	直近5年 間平均
総合生活 学科	49.1	90.6	92.6	85.7	85.3	92.3	95.5	98.8	98.6	98.8	96.8
食物栄養 学科	68.6	94.4	93.9	92.4	96.9	98.9	99.0	98.8	97.2	100.0	98.8
幼児教育 学科	93.1	99.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※短大全体の就職者数÷就職希望者数

【単位：％】

年月	23年3月 卒業	24年3月 卒業	25年3月 卒業	26年3月 卒業	27年3月 卒業	28年3月 卒業	29年3月 卒業	30年3月 卒業	31年3月 卒業	2年3月 卒業	直近5年 間平均
短大全体	68.8	94.7	95.5	93.3	94.1	97.1	98.1	99.2	98.7	99.6	98.5